

# Brief Letter

ブリーフレター

49

November 2011

## 特集

### 秋本病院と大相撲

大相撲九州場所との50余年の関わりを顧みて

秋本病院名誉理事長 秋本徹

相撲記者が見てきた、九州場所と秋本病院

元朝日新聞運動部部長 東京相撲記者クラブ会友 波多野亮

秋本病院に支えられた九州場所優勝

四十八代横綱大鵬 納谷幸喜

「医者青くする」柿の効能

管理栄養士 亀本裕子

映画「神様のカルテ」を観て

緩和ケアセンター 太田理佳

千夜医話 振れ太鼓

院長 秋本亮一

スタッフの横顔

ソーシャルワーカー 日々雑感

医療情報部長 社会福祉士 精神保健福祉士 内田浩稔

からすうり

からすうり 絵:宮本フ左

## Information from AKIMOTO

### Medical News

第9回 秋本メディカルセミナー報告 ©2011年10月1日(土)

#### 「救急救命講習会」



救急救命講習も3回目。今回は、福岡市消防局の増井様を始め、市民サポーターの方3名が指導員として参加いただきました。わずか26台の消防車で6万件/年以上もの事案に対応している現状報告や、実際に救急センターに掛かってきた119番通報の緊迫した音声も流されました。

3時間講習には30名近くの皆さんにご参加いただき、胸骨圧迫や人工呼吸、AEDを使った心肺蘇生法を体験しました。賑やかで楽しい雰囲気の中にも、真剣な質問も飛び交う、とても充実した講習会となりました。

福岡市救急病院協会(会長:秋本亮一)

福岡市救急病院協会では、市民の皆さんの生命を守るために、救急業務や講習、教育を行っています。休日当番医の情報も公開しています。 <http://www.1odn.ne.jp/~qq-byouinn/>

※切り取って身近な場所に保存できます

## SHOP

### 散策

料理と接客から温かさが伝わる警固のイタリアン

#### Osteria e Bar 「ヴィア・デッラ・ファジョーラ 54」



秋本病院正面横に出ているランチの看板が目印の、マンション一階にあるイタリアンレストランです。長いお店の名前は、フィレンツェで6年間修行したシェフの下宿先の住所とか。今もその家の方や修行先のカポ(親方)や仲間との交流があり、彼らから送ってもらっているというオリーブオイル、バルサミコなどはポーノ!ポーノ!

2008年11月にオープンした店内は、フィレンツェの家庭的なレストランを思い起こさせる設えで、セリエAフィオレンティーナ54のユニフォームが目を引きました。

キッチンで一品一品を丁寧に料理するシェフと、息の合ったアシスタント役とフロアーの接客をテキパキとこなすマダム、お二人のおもてなしの心が伝わり、料理を待つ時間が心地良く感じます。



冬のお奨めメニューは「カランティエーラ」。イタリア語で「馬車ひきの」という意味があり、フィレンツェ北部の冬の定番メニューで唐辛子を使った料理です。「牛肉の赤ワイン煮込みカランティエーラ」を寒い日にぜひいただきたいと思います。

丁寧に刻んだイタリアンパセリをたっぷり、ローズマリーやセロリ、タイムの絶妙な味加減、もっちりしているのにアルデンテの Pasta... 病院のスタッフや患者さまにも大ファンがいるのもうなずけます。料理と接客から人柄が伝わるお店です。

◎ヴィア・デッラ・ファジョーラ 54

〒810-0023  
福岡市中央区警固1-8-12 リフェスタ警固1F  
Phone&Fax/092-716-5401  
OPEN/12:00~14:30(お.ス.14:00)  
18:00~23:00(お.ス.22:15)  
定休日/火曜日(水ランチ休)



## 編集後記

「ブリーフレター」は、今号で49号となります。次号は「50号記念特集」を考えています。今回は秋本病院の振り返りの節目として、半世紀を超えた大相撲との関わりの特集としました。次号からは、100号を目指して新たに取り組みます。ぜひ皆様からご意見ご要望をお聞かせください。来年は良い年でありますように。(K.H)

秋本病院 ブリーフレター No.48 2011年11月発行 発行者/秋本亮一 発行所/医療法人AGIH 秋本病院  
Copyright 2009-2011 Akimoto Hospital All rights reserved.



〒810-0023 福岡市中央区警固1-8-3  
TEL:092-771-6361 FAX:092-771-9984  
<http://www.akimoto-hospital.jp/>

診療科目: 外科(消化器外科)・内科(胃腸科・肛門科)・心臓血管外科・整形外科・脳神経外科・放射線科  
外来診療受付: 平日8:30~12:30/14:00~17:00 土曜/8:30~12:00  
休診日: 日・祝



【救急告示病院】【日本医療機能評価機構認定病院】

消化器内視鏡センター/健診センター/緩和ケアセンター

## 秋本病院と大相撲

秋本病院が、大相撲と深い関わりがあることをご存じでしょうか。「秋本外科」が福岡市中央区天神の西通り沿いにあった時代から、「日本相撲協会指定医」として、長年関わりを続けていただいております。十一月場所（九州場所）の期間中とその前後はもちろん、土俵を離れたご縁も、今も続いております。

### 大相撲九州場所との50余年の関わりを顧みて

秋本病院名誉理事長 秋本徹

横綱白鵬が双葉山の連勝記録69を破るかどうか？昨年平成22年の九州場所は、相撲ファンだけでなく日本中が注目していました。角界を揺るがすさまざまな問題もあり、一時は無事に九州場所が開催できるかとても心配でした。

2日目に稀勢の里が白鵬に勝ち、白鵬の連勝記録は63でストップ。記録はいつかは破られるものでしょうが、破つてほしいようなほしくないような、複雑な心境でした。今年は大関魁皇がいよいよ最後の九州場所になる話題で盛り上がるかと期待していたのですが、鉄人をし

ようで、永い間本当にご苦労様と、エールを送ります。代って今年福岡県柳川出身の琴奨菊が大関に昇進し、最初の、しかも凱旋の九州場所です。魁皇に劣らず、福岡出身の大関として、更に横綱を目指して頑張つてほしいものです。

思い返せば、終戦から10年経たない昭和29年に、福岡スポーツセンター（現在のソラリアプラザの場所）がオープンし、アイススケートやプロレス、ボクシング、大相撲などの興業が始まりました。秋本病院も、大名の天神西通りに移ったばかりで、スポーツセンターからの患者さんも多くいらつしました。そんな時、大相撲の場所中の診療

所を手伝ってくれないかという話があつて、お手伝いしたのが角界とのお付き合いの始まりでした。そして50有余年、日本相撲協会指定医として、九州場所での新弟子検査と場所中の診療所へのスタッフ派遣や、関取衆の診療、治療、入院、診断書作成などに関わってきました。

新弟子検査は、当初は身長（173cm以上）・体重（75kg以上）・握力などの簡単なものでした。春日野元理事長（横綱栃錦）、二子山元理事（先代横綱若乃花）、鏡山元理事（横綱柏戸）さんたちとの信頼関係の中から、角界へさまざまな提言もしてきました。



今年の新弟子検査の様子

力士の健康と安全のため、新弟子検査の検査項目に新たに、血圧、レントゲン、心電図、血液検査などを加えたのは私です。中には、血液検査から肝臓が悪いことが見つかり、残念ながら入門できなかった若者もいました。普通の身長計では2mまでしか測れませんが、大関

琴歐洲（身長202cm）の新弟子検査では、看護師が急遽ものさしを2本使って計測したのも思い出します。本当は、関取衆と病院とは縁がないほうがいいのですが、大関さんとは、昭和42年清国戦での左ひじ骨折で入院して以来、大変懇意にしていたでいます。時はまさに「巨人・大鵬・卵焼き」と言われた絶頂期の頃。横綱大関は、入院中も毎日汗びっしょりになるまで、7階建ての病院の裏階段を昇り降りしてましたし、回復すると人目に立たない早朝にもくもくとトレーニングしていました。今思

い出しても、ひたすらに努力する姿勢に感服します。あの真摯でひたむきなエネルギーが、その後の梗塞からのリハビリに活かされているのでしよう。今年で私も91歳になりましたが大相撲、九州場所の50有余年を振りかえつてみて、1人の医師として、協会との関係が、馴れ合いにならなくてよかったと思つています。国技としての大相撲の、健全な発展の裏方として、日本相撲協会指定医は、医師としての良識と、公平かつ客観的で、媚びないことが大事だと改めて思っております。（談）

### 相撲記者が見つめた、九州場所と秋本病院

元朝日新聞運動部部長 東京相撲記者クラブ会友 波多野 亮

11月、福岡の話題は大相撲九州場所だろう。ご当所、柳川出身の新大関、琴奨菊のデビューとあって出足はよいようだが、新大関の効果はどうだろうか。九州場所は、準場所を2年やって昭和32年に始まった。当時、朝日新聞運動部の若造だった私は相撲担当ということになり、右往左往しながら、今のソラリアプラザのところにあった「福岡スポーツセンター」での会場作りから取材に当たった。準場所が始まると会場の一角に秋本病院の診療所が出来、看護師が常駐、秋本徹院長も顔を見せ力士や観客の事故に備えていた。力士が怪我をするとかけ出し相撲記者は診療所に走ったが、院長の説明は分かり易いとうるさい記者らにも好評だった。海の家のような支度部屋、風呂はひとつしかなくすぐ湯が無くなり力士は汗も流せないなどいろいろあったが、それはそれで懐かしい。そしてそれから半世紀。

歳月と共に土俵のほうもドラマが次々と生れた。優勝1号は玉乃海。幕尻近くで予想外の全勝を。大鵬が初優勝をして大関になったのも福岡。千代の富士は九州場所8連覇を。若乃花・貴乃花の「若貴ブーム」はものすごく、前売券を求める徹夜組など2千人を超す行列が出来た。連日、満員御礼の記録を作り、なんと兄弟の優勝決定戦までやるとは驚かされた。変わったところでは、怪我で途中休場の輪島が優勝の珍事も。また初代若乃花と一緒に大関になった松登を降して大関転落、引退の引導を渡した時は「人でなし」の声も聞かれた。が「心苦しかったが変な相撲は取れないし…」という若乃花の胸中も覗けた。年寄株の無い松登は廃業かと思われたが、朝潮が持ち株「振分」を貸すという友情劇も生まれる。昭和43年、時津風理事長が重い病気を出てきて大鵬に優勝杯を渡し1ヵ月後に亡くなったが、大横綱双葉山の最後の土俵上の姿も忘れられない。

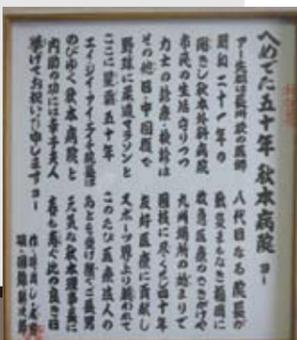
このような土俵の蔭で診療所は休み無しの毎日である。平成9年に力士らの信頼を集めた徹院長から亮一院長に病院のバトンが引き継がれた。プロバスケットチームのチームドクターもしているスポーツマンの亮一院長は、「大学病院時代に春日野さん（栃錦）の奥さんの担当医になったのも因縁でしょう。今は大相撲のための蔭の力になれば…」といいながら最新の医療知識と技術で親方、力士の中に溶け込んでの日々である。生まれは病院のほう早い、九州場所と共に歩んだといつてもいいだろう。先年、病院開院50周年祝いに相撲協会有志から祝いの相撲甚句が贈られ、会に花を添えた。元親方や元相撲記者ら古い仲間が時に訪れ前院長と昔話も弾む楽しい病院でもある。



琴歐洲関と



相撲協会有志からいただいた相撲甚句



両国国技館にて





## 「医者青くする」柿の効能



管理栄養士  
亀本 裕子

今回は柿についてご紹介いたします。柿の旬は、甘柿、渋柿の両方とも10月中旬～11月下旬です。「柿が甘くなれば、医者が青くなる」という言葉があるほど、柿の栄養価は高いのです。ビタミンCは100g中70mgといわれるのは、柿の渋みであるタンニンがアルコールを肝臓で分解するときに行きわたる「アセトアルデヒド」という有害物質を無害にする働きがあります。そのほか、豊富なカリウムの利尿作用のおかげともいわれています。ただし、柿は体を冷やすので食べ過ぎにはご用心を。



### 【簡単レシピ】柿プリン

【材料(2人分)】

- 柿 1個 (ピューレにして2/1カップ)
- 牛乳 2/1カップ(柿ピューレと同量)
- 砂糖 適量

**ポイント**  
熟した柿を使うとやりやすいです。

【作り方】

1. 柿は皮をむき、種をとってざく切りする。
2. ミキサーかフードプロセッサーにかけてピューレ状にする。好みの甘さになるように砂糖を入れる。
3. 柿のピューレと同量の牛乳を入れてよく混ぜ、器に流し入れる。
4. 冷蔵庫でしばらく(一時間位)冷やして出来上がり。

- \*砂糖以外にはちみつやコンデンスミルクを使ってもOK! 香づけに洋酒を入れると大人のプリンにかわります! 牛乳を多く入れてジュースにして飲むのもおいしいです。

## 11月の旬のもの

野菜: えのきだけ、椎茸、しめじ、ブロッコリー、カリフラワー、ごぼう、さつまいも、里芋、山芋、しそ、大根、なめこ、人参、白菜、ほうれん草、三つ葉、銀杏、栗、くるみ  
果物: 柿、みかん、りんご  
魚介類: いわし、カレイ、金目鯛、鮭、鯖、秋刀魚、スルメイカ、ふく、真鯛、わかさぎ

## 映画「神様のカルテ」を観て



緩和ケアセンター  
太田 理佳

“嵐”の桜井翔君が長野県の地方病院に勤める医師、栗原一止を演じ、多忙の中、医師としてのあり方を悩み葛藤しながらも、目の前にいる患者さんに寄り添う姿が印象的でした。緩和ケア病棟に勤務する私にとっても共感する場面は多く、自分の看護を振り返るよい機会となりました。

映画では、余命半年であとは好きなことをして過ごして下さいと病院から見離された、加賀まりこさん演じる末期がん患者が、以前診察してもらった一止を頼り、必死に一止の勤める病院を探します。身寄りのないこの患者にとって、気丈そうに見えても告知から死を受け止めるということは孤独であって、信頼できるスタッフがいて、安心できる居場所を見つけたことでその人らしい最期を迎えることができました。

終末期では痛みや息苦しさは薬でコントロールできても、どうしても抑えがたい辛さもあります。最先端の医療とは違い、私たちは命を救ったり長生きをするための手助けはできません。緩和ケア病棟に勤め2年半近く経ちますが、さまざまな患者様との出会いと別れを通して自分の未熟さで何もできなかったと後悔したり、辛いことも多々ありました。

しかし頑張っていられるのは、患者様から頂いた沢山の「ありがとう」の気持ちや穏やかな笑顔に何度も励まされているからだだと思います。この映画を観て、微力ではあるけれど、一人ひとりの患者様に寄り添える看護師でいたいと改めて感じました。

http://www.kamisamanokarute-movie.jp/  
2012年2月DVD発売予定



大鷗部屋にて

週曆土俵入り

第48代横綱大鷗関の断髪式にて

## 秋本病院に支えられた九州場所優勝

四十八代横綱大鷗 納谷 幸喜

私が二所ノ関部屋に入門した翌年の昭和32年、九州場所は本場所となりました。当時から日本相撲協会は、秋本病院にお世話になっております。秋本病院はお相撲さんにとって、なくてはならないところであることを、その月日が実感させてくれます。

私も現役時代、何度も治療してもらいました。初めて伺ったのは、入門した直後のことだったでしょうか。当時の秋本病院は、今よりもちんまりとしていました。左膝を故障し、入院したこともありま

す。その後、手首、肘、腰も痛めました。そんな時、いつも親身になって接し、治療してくれました。詳細が分からないと、専門家を連れてきてくれたこともありました。

私には、九州場所と相性がいいんです。昭和34年には十両で初優勝、翌35年には幕内で初優勝を果しました。36年には横綱に昇進した場所に当り、4度目の優勝を飾りました。こういう結果が出たのも、秋本病院にお世話になったおかげかもしれません。

私に限らず、日本相撲協会にとっても、秋本病院は大事なところなんです。昭和34年には十両で初優勝、翌35年には幕内で初優勝を果しました。36年には横綱に昇進した場所に当り、4度目の優勝を飾りました。こういう結果が出たのも、秋本病院にお世話になったおかげかもしれません。



2009年11月、病棟訪問時

(取材: 日刊スポーツ記者 佐々木一郎氏)

毎年の新弟子検査も、秋本病院にお願いしています。九州場所は1年に1回ですが、お相撲さんとは、切っても切れない関係なんです。これからも力士の面倒をみていただき、秋本病院のますますのご発展を祈念しております。(談)



西鉄バス  
「薬院二丁目」バス停より徒歩1分  
西鉄電車  
天神大牟田線「薬院駅」より徒歩10分  
地下鉄  
七隈線「薬院大通駅」より徒歩5分  
空港線「赤坂駅」より徒歩10分  
○お車で越しの方へ/外来受診(平日診療時間内)の患者さまに、薬院六つ角「MUTSUKADO PARKING」の1時間無料駐車券をお渡ししています。ただし、入院のお見舞い時などに無料駐車券はありません。ご了承ください。

## スタッフの横顔

皆さんに安心して医療サービスを受けていただけるように、当院ではいろいろなスタッフが表で裏で活躍しています。その横顔(素顔)をちょっとご紹介しましょう。



### アジアビューティーの新婚ナース

黒髪の似合うアジアビューティーな smile をもつお姉さんの存在の幸若サンは、7月にハワイで挙式をしたばかりの新婚ナースです。仕事では患者様の状態をよく把握しアドバイスをしてくれるので、何でも質問しやすい雰囲気があり頼りにしています。きっと患者様からの信頼も厚いはず。いつも細い体で活発に働いているので分かり難いですが、来年にはママになる予定。アジアビューティーなママに似た赤ちゃんが生まれてくれるといいなあ♥(紹介者:ぐっち)



一般病棟看護師  
**幸若 奈津子**  
こうじゃく なつこ



### おとぎの世界のゲンキが日々の笑顔に

医事課でただ一人の男子の加藤さん。無口で感情表現が薄い彼ですが、話しをすると面白く家族思いの優しい人です。勤務中は困っている時などフォローしてくれたり、よく周りを見ていてすごく頼りになる存在です。そんな彼の大好きなものは、かわいい奥さんとディズニーです。連休があるとディズニーランド&シーのみのために東京へ出掛けるほど、夫婦でディズニーにはまっているようです。ディズニーのことなら加藤さんまでお尋ねください〜い♪(紹介者:アリリン)



医事課  
**加藤 学**  
かとう まなぶ

# 千一夜医話

## 振れ太鼓

今年も大相撲が博多の街へやってきました。私の大相撲の一番の思い出は、大名小学校に通っている頃です。晩秋の朝の街に、福岡スポーツセンターで打ち鳴らされる振れ太鼓の音を聞きながら登校していました。街には髪付け油の香りが漂っていました。そのころは、若者時代から柏嶋時代でテレビは白黒、男の子の遊びは砂場に円を描いての相撲でした。私は強くはありませんでしたが、得意技は上手投げでした。学校から、スポーツセンターの天井に近い立見席に連れて行ってもらい、友達と大声で応援した思い出もあります。父の関係で大相撲と近いところのために、子供のころに初代若乃花に抱いてもらったことや、横綱大鵬が怪我をした後に黙々と復帰のトレーニングをしている姿を目の当たりにしたことを、今でも鮮明に思い出します。医師になつてからは、東京の順天堂医院で春日野親方(当時は相撲協会理事)の御家族の受け持ち医となり、親方の温かいお人柄に直接触れました。



理事長・院長  
**秋本 亮一**  
あきもと りょういち

5月場所の頃に、お相撲さんが着物の裾を風になびかせて国技館脇の隅田川の岸を歩く姿は、何ともカッコイイものです。今は、九州場所の新弟子検査を行ったり、場所中に福岡国際センターの診療所を運営したりするのが、大相撲との関わりです。力士の怪我の診察もします。年に1度、両国国技館で大相撲に関わっている医者が全国から集まって「相撲医学協議会」なるものが開催されます。持ち寄った力士の怪我のカルテを開き、取り組みのビデオを見ながら討議して、力士の怪我からの復帰と怪我の予防を考えています。力士たちの健康状態も議論しています。九州場所が始まると自宅にストープが入りました。九州場所が終わって朝日マラソン(現、福岡国際マラソン)が終わると、博多の街は年末です。私にとって、大相撲には季節感がありません。琴奨菊ガンバレ!

### ソーシャルワーカー 日々雑感



医療情報部長  
社会福祉士、精神保健福祉士  
**内田 浩稔**  
うちだ ひろとし

### いのちは繋がる

この世に生まれて死を迎えるまでに、どれだけ出会いと別れを繰り返すのでしょうか。そしてその間、どれだけの人と繋がりを持つのでしょうか。今回は「生と死」そして「人との繋がり」について考えを巡らしたいと思います。死とは何でしょう。想像してみてください。もしあなたが、愛する家族の死によって遺族となってしまったら、そして深い喪失感を抱えたまま悲しみの日々を送ることになってしまったら…触れると感じられた温もりが、今はもうない。普段は当たり前すぎて気にも留めなかった息づかいや匂いをもう一度感じたいのに、もう何も感じない。元気をくれたあの笑顔や、もう見ることはできない。勇気をくれたあの声も、もう二度と聞くことはできない。もちろん話し

かけても、もう返事は帰ってこない。そばにいてだけで癒され心強かったその存在も、今はもう何もない。星になったのか、野に咲く花や草にでもなったのか、あるいは別の何かに生まれ変わったのか。やはり神のもとへ行ったのか、それとも仏になったのか、いや全くの無になってしまったのか…しかし、愛し愛された記憶やいろんな思い出が、あなたにはあります。確かにこの世に存在した証が、あなたや誰かの心の中にあります。記憶となって、思い出となって、ある時は自分を突き動かす強い信念となって、残された者の心の中に生き続けます。いつの日かあなたが死を迎える時、あなたも誰かの心の中に生き続け、いのちの糸が絆となって繋がっていきます。死はいつか必ず訪れます。それは終わりであるのかもしれないけれど、誰かの心の中で生き始める瞬間であるのかもしれない。いのちは、単なる血の繋がりでなく、絆となって誰かに繋がっていくのではないのでしょうか。愛すること、信じること、尊敬すること、感謝することで、絆は強くなります。あなたのいのちは、誰かの繋がりによって生まれ、生かされ、そして絆へと形を変えてまた誰かに繋がっていく。私は、そう信じて生きていきたいと思っています。

